「大根づくりと子どもバザー　栽培活動から販売活動へ」

－労働の尊さやお金の大切さ，流通のしくみに関心をもつ－

徳島県徳島市立川内北幼稚園園長　**秋田芳子**

事例の位置付け		
	実施学年	幼稚園　4歳児・5歳児
	教科等	
	単元名	大根作りと販売を通して，労働の尊さやお金の大切さに気づき，流通のしくみに関心をもつ。

ねらい

1. 身体を動かして汗を流す労働の心地よさや充実感を味わわせる。
2. 野菜の栽培を通して生長や収穫の喜びを体験させる。
3. お金は労働の報酬として得られるということに気づかせ，労働の大切さや身の回りの働く人に感謝の気持ちをもつとともに“物やお金を大切にする心”を育む。

展開の特色

1. 銀行，スーパー等地域の環境を生かした教育内容を組織し，幼児の発達や興味に合わせた活動をする。
2. 野菜を育てる労働という実体験により，身体を通して五感で学ぶ。
3. 実際のお金を使っての売り買いを経験し，銀行での入金や出金を擬似体験する。
4. 労働体験をお金という報酬に換える経験を通して「お金は労働の対価である」ということを学ぶ。

構成

大根づくり

↓

労働体験（大根づくり）をお金という報酬に換えるまでの活動
《銀行見学》　《お店ごっこ》　《バザーに参加》

↓

値段調べ（近くのスーパーへ）

↓

子どもバザー（自分たちで栽培した大根を保護者に買ってもらう）
《収益を園で作った銀行に預ける》

↓

収益でお別れ遠足のお菓子を買いに行こう
《園の銀行からお金を引き出し，近くのスーパーへ》

学習内容

展開①

①大根づくり

幼稚園のすぐ隣にある田んぼを借りることができた。土を耕し，畝（うね）を作る準備は，農業をしている保護者の方が手伝ってくれた。

大根の種まき　（10月10日）

夏野菜の収穫が終わったので，今度は広い畑で冬にできる野菜の大根を作ろうと話すと，１学期の野菜づくりを思い出し，どの幼児もうれしそうな顔をする。大根の種を見せ，今度は苗からではなく，大根を種から育てることを知らせると，小さな種を見て不思議そうな顔をする幼児もいる。

畑に行くと，種まきをすることを楽しみにわくわくしている様子で畑の周りに座って順番を待っている。順番に畑に入って，自分の畝に名札を立て７カ所種をまく穴を開ける。教師から手のひらに大根の種を三つずつもらい，一つの穴に入れた後，土をかぶせていく。教師が「三ついっぺんに入れていいよ」と言っても１粒ずつ大事そうに穴の中に入れていく幼児もいる。そっと土をかぶせる幼児，手際よく種を入れて，さっと土をかぶせていく幼児など七つの穴全てに種を入れ大根の種まきに楽しそうに取り組んでいる。「先生，水やりするんだろ？」「いつ芽が出るんかなあ」と，どの幼児も大根を育てることに期待をもっている。

「これ大根とちがうでえ」（11月17日）

大根葉がだいぶ大きくなってきたので，３本あるうちの１本だけを残して２本は抜くことにする。まっすぐ伸びた太い大根を育てるために，１本だけ残して場所を広くすることを知らせる。どの苗を残すか一人ずつ相談しながら教師と一緒に抜いていく。おそるおそる引っ張った先に細い白い根が見えてくる。「これ大根とちがうでえ」とイメージしていた大根との違いに気づいて言う。「この細い赤ちゃんの根からどんどん大きくなっていくんだよ。太い大根ができるといいね」と話すと少し納得した様子である。「先生，草も抜いとかなあかんよなあ」。自分の大根の周りの草抜きを一生懸命している幼児や「うわあ，Ｅちゃんの大根ごっつい大きいなっとるなあ」と，青々と葉を広げている友達の大根の様子を見てとっても嬉しそうにしている幼児など，どの幼児も田んぼでの活動を楽しんでいる。それぞれに抜いた大根葉は家庭に持って帰り，調理してもらうことにする。

「一番太いん見つけた！」（１月13日）

冬休み明け，大根は収穫できるほど大きく育っている。「もう１番大きいのは収穫できそうやな」「１本だけ抜いてみようか」と幼児たちと相談すると「やった！」とうれしそうな声を出す。

畑に入ると大根の上部が土から出ている。「先生，一番太いん見つけた！」「これ抜いていいん？」と自分の大根の中から一生懸命に一番太い大根を探している。「これが太いなあこれ抜こうか」と一人ずつ教師と相談しながら

	学　習　内　容
展開①	大根を抜いていく。大根を折らないようにまっすぐに力を入れて引っ張ると，土の中から白い大根が姿を現す。力を入れてしりもちをつく男児もいる。「やったあ!抜けたあ!」「うわあ，大きい大根やなあ」と抜いた大根をうれしそうに高々と上げたり，大切そうにしっかりと脇に抱えたりして，どの幼児も初めての大根の収穫をとても喜んでいる。
展開②	❷労働体験（大根づくり）をお金という報酬に換えるまでの活動 銀行見学―お金の流通のしくみについて幼児なりに気づいたり，お金は欲しいときにいつも機械から出てくるものではなく，家の人が働いて手に入るもので，お金やものは大切なものという意識の芽生えを育てたいと考え，銀行の様子やキャッシュコーナーを見学に出かけた。 お店ごっこ―ごっこ遊びを通して，物を作ることの尊さや売れたときの喜びなどを体験し，品物を売ったり買ったりのやりとりを楽しむ。 バザーに参加― PTA 参観日に家の人と一緒に，お金を払って買い物やゲームをしたり，店の人になって品物を売ったりする体験を通して，流通のしくみやお金や品物の価値に気づいていく。 銀行見学やお店ごっこ，また実際にバザーを経験するなどのさまざまな体験をするなかで，自分たちも栽培した大根をお家の方たちに買ってもらいたい気持ちが高まり，幼児たちと相談して，残っている大根を販売することになった。そして，販売する前日，近くのスーパーへ大根の値段を見に行くことにした。

	学　習　内　容
展開②	❸値段調べ（近くのスーパーへ） 「だいこんいくらくらいするのかなあ?」（２月３日） 楽しかったバザーの話の後，みんなで店を開き，家の人に買ってもらおうと話し合い，今まで育ててきた大根を売ることにする。得たお金はどうするかと相談すると「おもちゃを買う」「お菓子を買う」などの意見が出て「お別れ遠足の時のおやつを買おう」ということになった。 「大根っていくらくらいするのかなあ?調べに行こう」と提案し，近所のスーパーへ見に行くことにする。「100 円くらいと違うかなあ」「500 円はするよ」などと話をしながら歩いていく。スーパーに入ると，並べられている大根を見つけて「１本 138 円」と読める幼児もいるが，大きな数なので教師が読んで知らせると「138 円か」と納得したように言う。隣に半分にカットされた大根を見つけたＫ児は，「78 円て書いとる，78 円の方が安いよなあ」と言う。「ほうやなあ」と納得する幼児もいるが，全く興味を示さない幼児もいる。教師が「１本 138 円の大根と，78 円の大根はどっちが安いの?」とみんなに尋ねると「78 円」とほとんどの幼児が言うが，H児が「138 円のほうは１本やけん，こっちがお得よ」と得意気に言う。「じゃあ同じ 138 円だったら太い大根と細い大根，みんなだったらどっち買う?」と太さの違う大根を見せて尋ねてみると，ほぼ全員が太い大根のほうを指さした。 スーパーから帰って，自分の大根と比べてみることにする。「スーパーのほうが太いなあ」「同じくらいと思う」とスーパーで見た大根を思い出しながら自分の大根を真剣に見比べている。大根が１本いくらで売れるかを，みんなで話し合う。教師が「スーパーの大根とみんなの大根とどっちが大きかった?」とたずねると「スーパーのが大きかった」と答える幼児が多かった。「スーパーの大根はいくらだった?」「138 円」としっかり覚えて帰ったＳ児が答える。「じゃあ，いくらで売れるかな?」と教師が聞くと「198 円」「えっ 198 円?」「10 円にしよう」と言う幼児もいて，いろいろたずねても幼児には適当な値段が分からない様子である。それで教師の方から「１本 50 円でどうかな」と提案する。
	❹子どもバザー（自分たちで栽培した大根を保護者に買ってもらう） 「いらっしゃい，いらっしゃい」（２月４日） 机を並べたり，看板を飾り付けたり，張り切って店の開店準備に取りかかる。飾り付けが終わると大根畑に行き，太そうな大根を２本選び抜くことにする。以前に大根を抜いた経験があったので，どの幼児もスムーズに抜くことができた。両手にうれしそうに収穫した大根を持って帰り，水道で「冷たい，冷たい」と言いながら抜いた大根を一生懸命洗って泥を落としていく。 スーパーで売っていた大根に負けないくらい白くておいしそうな大根が，それぞれの前に並べられ，いよいよ大根屋さんが開店する。まだお客さんの姿はないのに「いらっしゃい，いらっしゃい」と元気よく声を上げて張り切っている。いざ保護者の方が「大根ください」とやってくると，「いらっしゃい」と小さな声になり，少し照れくさそうになる幼児が多い。Ｎ児は「新鮮だよ! １本 50 円!」とまるで八百屋さんのような口調ではきはきと応対している。なかには「１本 50 円，２本ではいくらになりますか?」と尋ねられると「２本 10 円」と答える幼児もいる。

memo・注

	学　習　内　容
展開②	 大根を売って得たお金は，リズム室に開設された“かわうちきたぎんこう”に預けに行く。「お金，預かって下さい」とお金と引き替えに，預金通帳を銀行員になった教師からもらう。大根を売って銀行にやってきたM児は，教師から預金通帳を渡されると，にっこり微笑んで 100 円と書かれている通帳をじっと見て大切そうに持って部屋に帰る。母親が「よかったなあ。大事にしときよ」と話しかけている。また，農業をしているU児の母親は「大根，洗うん冷たかっただろう!」とU児に，いたわりの言葉がけをしている。その表情から“仕事についての厳しさ”をやさしく伝えているのが伺えた。 数日後，２度目の子どもバザーを実施し，幼児の通帳にはそれぞれ 150 円預金された。そして，預金できたお金で，お別れ遠足のおやつを買いに行こうということになった。 ❺収益でお別れ遠足のお菓子を買いに行こう 「遠足のおやつ買ったよ!」（２月 27 日） 前日に，自分の買いたいおやつについて話し合い，一人３種類のお菓子を買うことにした。袋菓子は自分の好きなものを選び，あとの２種類は，みんな同じグミとチョコレート，合計 132 円になることを話していたので，どの幼児も買い物を楽しみにしている。 登園してきた幼児から，まず自分の預金通帳を持ってリズム室に開設された“銀行”へ行き「お金おろしてください」と言って，通帳から 132 円を出してもらう。「これ見て!」とポシェットに入ったお金を友達と見せ合ったり「ここに 132 ってかいとる」と通帳に書かれた数字を興味深そうにながめたりしている幼児もいる。全員がお金をおろすことができたら，近くのスーパーへと出発する。スーパーに着くとお菓子売り場へ一目散に向かい，自分の選んだ袋菓子と，グミとチョコレートを探す。「ここにあるよ」「僕はもう三つ見つけたよ」とあっという間に買いたい品物を選んでレジへと向かう。「132 円です」とレジの人が言ってくれると「はい!」とさっとお金を出してレシートをもらう。「僕のグミは赤の袋」「私は緑にした」などと買ったおやつを友達と見せ合って，とても得意そうな表情である。園に帰り，通帳の残金 18 円は，遠足のバス代の一部にあてることを幼児に知らせた。

memo・注

反省・考察

1. 小さな一粒の種が少しずつ生長して，幼児のイメージする大根へと育っていった。その栽培活動の過程で，草抜きや水やり，など常に主体的に取り組んだり，実際に目や手，肌でかかわるなどの経験をしたりして，喜びや驚きなどを感じ取ることをができた。このような体験を重ねることで物を大切にする気持ちが育ち，それが相手への思いやりの気持ちへと育っていくことを今回の実践を通して実感した。
2. 自分たちで丹精込めて世話をした野菜作りの経験から“ものを大切に思う心”が育ち，また，その大切に育てた野菜を売り，そのお金で自分たちの遠足のおやつを買うという一連の体験を通して「労働を通して得たお金は貴重な物である」という価値観を幼児なりに感じとることができたと思われ，非常に意味深いものであったと考える。これを土台に今後も年間を通じて，野菜作りなどの栽培活動を中心とし，働くことに感謝する気持ちが，徐々に育まれるように実践していきたい。また，労働の対価であるお金を大切にすることにも気づかせていきたい。
3. 泥んこになって収穫し，冷たい水できれいに洗った大根は幼児にとってとても大切な物であった。一生懸命世話をした大根が売れたときの喜びは100円のお金には代えられない価値があり，初めて得た報酬は幼児にとって何よりもうれしかったようだ。また，それを銀行に預けることで喜びが高まり，さらに預金通帳から本物のお金を引き出すという経験によって，物やお金の流通のしくみについて幼児なりに理解することができ，とても貴重な体験だった。
4. スーパーに大根の値段を調べに行った時に，138円の大根と78円の半分にカットされた大根を比べるとほとんどの幼児が78円の方が安いと答えた。しかし，大根の値段を決める時には「10円」とか，数字に対する理解が曖昧なことが分かった。幼児は，お金が大切なことは分かっても，その値段の高い安いについてはまだ十分理解できないのが幼児期の発達段階であることを，教師が再認識する機会となった。
5. 幼児は家庭生活を基盤として，幼稚園と家庭との連続した生活のなかで育っていくものであり，幼児の育ちには家庭との連携は欠かせないものであると考え，保護者への「金銭教育」についての啓発をしてきた。しかし，保護者の話などから，まだまだ連携の仕方が足りなかったことに気づかされた。今後は，実態に応じた，より具体的な働きかけが必要であると感じ，更に工夫していきたい。